

木育のウラ 1月30日(日)

第2部 森の逸材大集合

コーディネーター： 若杉 浩一(武蔵野美術大学 教授)、谷地 大輔 (パワープレイス)

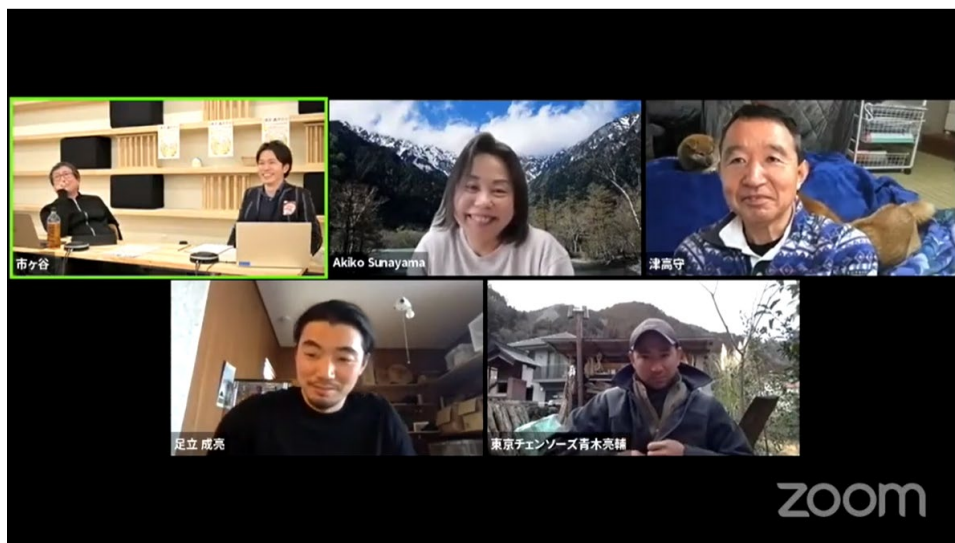
コメンテーター： 津高 守 (J R九州コンサルタンツ(株) 取締役副社長)

出演： 足立 成亮 (Outwoods 代表)

青木 亮輔 (東京チェンソーズ 代表取締役)

砂山 亜紀子 (もりラバー林業女子会@石川 代表)

森の逸材の3人は全員森に関わっている、林業従事者。本業以外のやりたいこと、を取り込みながらやり通している。この3人に共通していることは何かをあぶりだす1時間。見えてきたのは対話の必要性や、そのための勝手なお世話をつらぬく姿勢など。



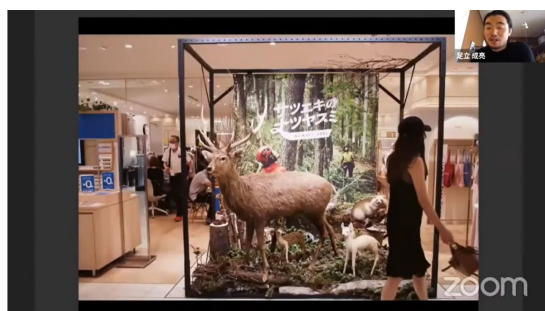
森の逸材と言わしめる、それぞれの生きざま

足立 12年林業に従事して今はフリーの木こり。環境保全型の林業を行っている。森の景色を変えないように、でも丸太はいっぱい出せる、そんな林業。空間をいじるのが好きなので森林空間のプロデュースをやっている。あと道を作っている、林業作業道。スキーを履い

て森林調査もやっている。薪を作っている。街の人に森のストーリーを伝えることができる素晴らしいツールだと思う。簡易製材機を買って、パルプ材になる丸太にもっと価値をつけようとテーブルや椅子を作り、展示をしたり、町場にダイレクトに木を届けている。ツリーテラス。僕らがいじった木をダイレクトに森に返し、なおかつ街の人も連れて行こうよと。ロックフェスに、僕らの現場から出た素材だけを使ってブースを作るとか。どんどん関係人口を増やしていこうと。

最近子どもが生まれたので、現場に連れて行ったりとさっそく木育・森育を始めた。自分自身もどんどん木育・森育に深く入っていつている。

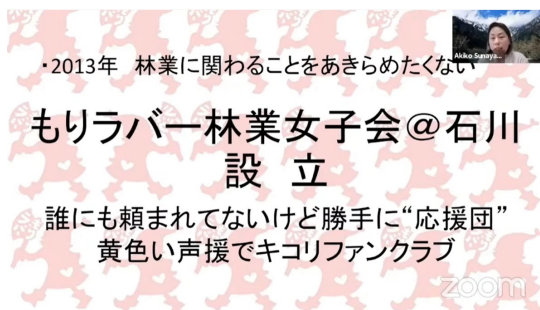
最近はこんな森があったらいいよね、という妄想を形にする団体「森と街のがっこう」を立ち上げた。大丸百貨店で空間演出をやらせてもらっている。札幌駅前に1トン越えの馬搬をやっている馬を連れて行ったり、マルシェをやったり。見過ごしてきたものっていっぱいあるよね、もう一度色んな森に目を凝らしてみようと言いたくて、この展示、活動をやっている。



青木 東京の檜原村を拠点に林業をやっている。「東京の木の下で」この地に根を張って仕事をしていこうと。小さくて強い林業を目指す。公共事業の森林整備をやりながら、自分たちで起こした事業も両輪で。地域に木材産業を興していこうと。一本丸ごと使いきる。個性を生かす使い方、木材の高付加価値化と未利用材の利用を。ツリーに使った木を木道に再利用してSDGsの観点で。未利用材の中から出てくる宝物を「森デリバリー」としてワークショップの開催と物販を行っている。「山男のガチャ」。端材まで生かすためにマグネットやおもちゃにして、多摩エリアに60機置いている。「6歳になったら机をつくろう」木こり体験と机作り。どうせ伝えるなら若い子に。その方がそこから多くの人に伝わっていく。「檜原村トイビレッジ構想」。日本で初めての「木のおもちゃの村」で木材産業振興を目指す。森林空間の利用として「東京美林倶楽部」。地元人の山をお借りして、会員制のアウトドアフィールドとして活用。山主さんへの還元を。こうやって関係人口を増やして応援してくれる人たちを増やしていく。補助金がなくても成り立つ林業、小さなことでもいいので成功体験を。



砂山 私はフツの人、たぶん。結婚を機に金沢に来た。まず登山にはまり、山に恩返しをと誘われ、森林ボランティアを始める。そのうち根拠のない自信とともに「そうだ！林業しよう」と。金沢林業大学に入り研修を積んだけれど、成果主義・効率重視の林業では私は受け入れられなかった。あきらめきれず、もりラバー林業女子会@石川を立ち上げた。誰にも頼まれていないけど勝手に林業応援を。そんな中、多くの人の前で楽しそうにふざけている若杉さんにシンパシーを感じ、各地の林業関係地、ツアー、集いに出現。広める応援を始める。「キ☆コレ」(キコリノシゴトコレクション)を金沢駅の鼓門の下で開催。とうとう好きすぎて、民間の森林管理会社に入社することに成功。森の現場監督に就く。仕事と遊びの境界があいまいであること。現場は苦しいこともあるけれど楽しい。現場から楽しいことを発信している。そんな私を人は変態と呼ぶ。誉め言葉と思っている。



3 人をさらに深堀りする

津高 そういう砂山さんを見て、旦那さんはどうしてるの。

砂山 結婚を機に金沢に来たから最初はどこかに連れて行って、という感じだった。今では自分で自由に外に出て活動できるようになった。私が機嫌がいいのが彼にとっての幸せなんだ、と勝手に思っている。

若杉 青木さんがそんな風になったわけは。

青木 林業がやりたくて探していたらたまたま檜原の森林組合に入った。組合の事務所の前で試しに丸太を売って見たら「勝手なことをするな」とめっちゃくちゃ怒られた。このままでは好きなことができないなと5年後に独立。自分たちの意思が通る会社を立ち上げよう、と。

若杉 この3人に共通するのは偶発性、突発性の連続。足立君はなんで山に向かったの。

足立 思い立っただけ。26歳まで自分で写真売ったりとかして生きていた。お給料もらったことないなと思って、もらってみたいなと選んだ仕事が林業だった。木が好きだった。すごい永遠を感じる存在で。そのそばに行ける職業を選んだだけなんだなと。

青木 もともと探検部にいたので人が行かないところに行って遊ぶ、それを人に伝える。今でもそれをやっていると思っている。林業のまだ誰も知らない可能性を探りたい。人は知らないものに対して警戒する。いや、そんな警戒している場合じゃない、もったいないよとかみ砕いて説明しようとしている。

若杉 一生かかってもやりきらないかもしれない。そしてかみ砕いて伝えたいってそれって余計なお世話っていうね…。世の中でそれは絶対必要なことだと思う。

砂山 きれいな山や木を作るために汗水たらして働いている人がいる。その人たちにスポットライトを当てたい。それを知ってほしい。その人たちがいないと、私たちはこんな風に当たり前にも暮らせない。そういう人たちに光が当たってほしいといつも思っている。

足立 キレッキレにきれいにしないと見てももらえない。襟を正すという瞬間が山奥にいるとない。僕らをしっかり見せるという意味も。林業業界も見てもらいたいけど自分たち自身もしっかり襟を正せよ、と。いい仕事しているか？ということも言いたい。

若杉 1部で子供や社会に「認める」機会がなくなったという話が出た。対話が無いからだ。山の現場や人に光を当てることは必要なんだ。それを伝えるために世の中に余計なお世話をするというのがこの逸材の共通する点なんだなと。伝える力、写真の力。見られる、撮られることで自分たちの仕事が美しく磨かれていく部分はある。

2022年1月30日

木育・森育楽会 **くら** (勇気のおきよる変態集団) 第2部 森の逸材大集合

足立 成亮 林業歴12年 Outwoods代表 (北海道)

SDGsを言う人は現場に 環境保

来てほしい。 全型の林業



大学は
文学部
英文学科
(探検部)

生後1ヶ月
から木育・雪育

遊び
たおしている
大人!

丸太も出つつ
森林をかえさないで
ほどよいサイズの林業!

・林業より人間に
お金と役割が
いきわたるように。
・ストーリー・ムミで
地域に薪を売る。
人とつながれる。

・街の人と森の人がつながれるように
空間づくり、イベント。

・山の遊びと林業をリンクする

森と街のかけこウッデンチェンジアワード受賞!

こんな森あったらいいな

街というシステムを作り上げるために

見すごしてしまった事に
もう一度光をあてる!

奥山(山内さん)の
撮る写真が
スバラシイ。

見らる
ことで
エリを正す

砂山 亜紀子 (もりラバー 林業女子会)



私達が
変態だ
言わない
社会に
なると
ほしい
今山から
おひる
恩恵を
あつた減らす次の
世代へ

兵庫県生まれ 京都で大学
→登山をはじめる
2008年森林ボランティア(金沢にて)
「あれ? 里山荒れてる?」
↓
「そうだ! 林業をしよう!」
金沢林業大学(2期生)入学!

私がキゲンが良い
のが家庭の幸せ!
(スバラシイ!!)

はいめはうまくいかなくても(戦力外通告)
おまらめきれない!! 大好き会(イングリ)でつながる。
2014年に「僕はヒョー木です」と
言う若杉先生に会う。楽しんでいいんだ!!

青木 亮輔 さん

東京都檜原村

小さくて強い林業!

林材価格が安すぎ!

その中で地味で
やっていくために...

木を一本まるごと使いきる

ex. 1本1万円が

森ビルでディスプレイと100万円に!

・枝葉の利用

→軽いのでお年寄りでも扱える。

山男のカチャ

ウッドデザイン賞

中に木のおもちや

マグネットが入っている。

檜原村トイセリッジ構想

日本初「木のおもちの村」組合

東京チェーンソー

林業の99%が
林業を
おぼろ!

夫婦円満

のために
外にはあ



森が
好き

それを
伝えたい。
かみ
くたい

補助金が
なくても成り立つ
林業!

↑ 森林組合で
ネガティブな
面に嫌!とあ
中にいてできない
なら外でやる

東京美林クラブ

モッキノモリ

会館アウトドア空間として

関係人口を増やす!!

・ようびさんの応援・大人の木育

などなど

キ☆コシ(キコリシゴトコレクション)

楽しそう! がつなぐ 共感力

→ 戦力外ひっくり返して仕事に!

井ノサの現場日記 も見てね!

現場で汗をながして
いる人・仕事を
知って欲しい!
(それが無いと実は生活
できないんだよ!!)